

『韓国語教育研究』(第9号) 別刷

ISSN 2186-2044

【研究論文】

成分副詞 ‘ㅁㅁ이[ma:ni]’ の語順について

金 世朗

日本韓国語教育学会

2019年9月

成分副詞 ‘많이[ma:ni]’ の語順について

金 世朗

本稿は、成分副詞 ‘많이[ma:ni]’に着目し、実際のテキストを元に ‘많이’ の語順における特徴を明らかにすることを目的とする。コーパスを利用し、 ‘많이’ の位置を調べた結果、全体の98.1%が用言の前に位置していた。さらに ‘많이’ が用言前ではなく用言句節「名詞+助詞+用言」の前に位置する105例を分析した結果、一定の文構造上の傾向が見られた。二重副詞文(더 많이など)のように ‘많이’ の意味が強化している場合、 ‘많이’ が先行する名詞を修飾限定する「動作の主体・対象+많이+用言句節」構文、用言句節が一つの意味単位として機能する分離用言・慣用句などの場合に、 ‘많이’ は用言句節の前に位置する傾向が見られた。これらの傾向は、それぞれ「強調」、「焦点の移動」、「表現効果のための書き手の意図」といった文体的な理由と合わさって、 ‘많이’ の位置が決まることが明らかになった。

1. はじめに

韓国語の副詞は、文章内の特定成分を修飾する「成分副詞」と文章全体に関わる「文章副詞」に分けられるが(남기심・고영근 2014 : 172-177)、本研究は、その中でも成分副詞に関するもので、実際のテキストをもとに副詞 ‘많이[ma : ni]’ の語順の特徴を明らかにすることを目的としている。

韓国語学習者の作文からは以下のような誤用が多く見られる。

(1)a. 공원에는 많이 사람이 [많이] 있어요.

公園にはたくさん人がいます。¹

b. 나는 여름 방학에 많이 아르바이트를 [많이] 했다.

私は夏休みにたくさんアルバイトをした。

¹ (1)の日本語訳は作文した学生によるものである。

(1)は、副詞‘많이’を用言‘있어요, 했다’の直前に位置するように指導されたもので、いずれも日本語の「たくさん」と同じ位置に‘많이’を入れたことで不自然な文になっている。韓国語教育では、韓国語の副詞は日本語より語順において厳しい制限があり、用言の直前に置くべきであると指導することが一般的である(金世朗 2015)²。(1)のような誤用もそれに従えばまずは問題がなさそうだが、実際に目にする韓国語の文章の中には(2)のように‘많이’が用言の直前に位置しなくても自然な例はいくらでもある。

(2)a. 콘택트렌즈의 부작용으로 가장 많이 피해를 입는 곳은 검은자위라 부르는 각막. (한국일보 93-10)³

b. 페미컬린 특의 등장과 함께 거친 느낌을 주는 소재를 사용한 옷이나 액세서리들도 많이 눈에 띈다. (중앙일보 2002)

現に、学習者の作文を添削していると、非文か正文か判断が難しい場合が多々あるうえに、(2)のような例を質問されても説明に苦しむ。そこで筆者は、成分副詞の中でも最も語順に厳しい制限があると言われる‘잘[tjal]’を対象にコーパス分析を行なった(金世朗 2016)。その結果、‘잘’が用言前に位置しない例を中心に一定の傾向があることが確認できた。しかし、副詞はそれぞれその意味機能が異なっているうえに、一つの副詞の分析でその傾向を一般化することは難しく、さらに多様な副詞の語順研究が課題として残された。

本稿は、副詞‘많이’に着目し、コーパスを利用してその位置を量的に分析することで‘많이’の語順における傾向をとらえることが目的である。また、‘많이’の位置変位の要因を探るために位置による表現効果及び意味の差も合わせてみていくことにする。よって、本研究は副詞の語順に関して統辞論的な観点のみでなく、意味論的な観点からも考察を行うことを前提とする。

² 韓国語教育における副詞の語順教育に関する詳細は、金世朗(2015)を参照されたい。

³ 本稿における各例文の最後の()は、コーパスの中に記されている出典名を表す。(2)は、고려대학교 민족문화연구원のコーパスから抽出した例である。

2. 成分副詞の語順に関する先行研究

손남익(1995)は、副詞を位置制約がある「制約副詞」と、位置制約がない「自由副詞」に分類をしている。前者には様態副詞(動詞修飾副詞)と程度副詞(形容詞修飾副詞)、否定副詞が属しており、後者には時間副詞と場所副詞、そして様態副詞のうち頻度副詞がそれぞれ属する。

成分副詞の語順研究の一つの特徴は、修飾対象が動詞か形容詞かによって語順の特徴を見ようとする傾向がある。形容詞を主に修飾する副詞は、その基本位置は用言の直前で位置制約が厳しいという意見が一般的である(朴秉洙(1976)、손남익(1995)、임유중(1999)、홍사만(2002))。一方、動詞を主に修飾する副詞は、その位置が用言の直前だけであるという意見と、動詞句(VP)以内ならどこにでも置けるという意見に分かれる。손남익(1995:81)は、動詞修飾副詞を形容詞修飾副詞と同様に、用言の直前にしか置けないものとして見ている。朴秉洙(1976)は、動詞修飾副詞はその動詞の直前が最もいいが、文体上の理由によりVPの支配の範囲内で移動が可能であるとしている。성기철(1992:130-132)も、

‘깊이, 많이, 다, 잘, 고루’などの副詞は、述語の前に位置することを最も好むが、目的語の前後など述部内では位置移動が可能であると述べ、「叙述部自由語順副詞語」に入れている。임유중(1999:165-168)も動詞や存在詞を修飾する副詞は、目的語や述語の前に置くことがいいが、正常位置は目的語の前であると述べ、朴秉洙(1976)・성기철(1992)と意見を異にしている。

反面、述語が形容詞か動詞かを問わずに、修飾対象の〈様態性〉を修飾するか〈程度性〉を修飾するかで副詞の機能を判断しようとする研究がある。徐常揆

(1991:17-25)は、‘애를 먹다’は‘밥을 먹다’と異なり、動作性は薄れ一つの状態性を帯びている事柄として認識している。신지연(2002)も程度副詞は幅広く

“状態性”という意味を修飾するもので‘힘이 들다, 애를 먹다, 정성을 들이다, 마음이 상하다’の場合、副詞はこれらの動詞句の前で修飾する時により自然だと述べている。徐常揆(1991)と신지연(2002)は、副詞の語順研究において被修飾語が動詞なのか形容詞なのかなどに限定して考えてはいけないことを示唆する。

このように副詞の位置に関しては、副詞の正常位置及び移動の自由度において研究者による意見が異なっている。また、副詞の位置変位の理由として文体上の理由が挙げられているが、文体的な理由ならどのような場合でも位置移動が可能かという疑問が生じる。前述した通り、金世朗(2016)では、コーパスを利用し副詞‘잘’の語順を分析している。分析の結果、‘잘’が用言前を離れて動詞句の前に位置する際の特徴として、その動詞句が①連語か慣用句である場合、②否定文である場合、③連体修飾節である場合、④助詞がなくてもいいところに助詞を入れている場合、⑤動詞句内の助詞が省略されている場合といった特定の傾向があることを明らかにしている。

3. ‘많이’はどんな副詞なのか

3.1 韓国語教育における副詞‘많이’について

韓国語学習者コーパスに現れた副詞の使用を分析した유현경・서상규(2002:221)によると、‘많이’は、初級学習者の間では‘다시, 너무, 안’の次に使用が多く、上級学習者の間では最も使用頻度の高い副詞だった。また、日本人学習者の副詞の使用を分析した정예린(2004)では、‘많이’は初級レベルでは語順における誤用が最も高い副詞になっており、印省熙(2015)によると、その語順の誤用は上級まで続いていることが確認できる。このことから、‘많이’は学習者が多用する副詞であり、初級から上級まで語順における誤用が多い副詞であることがわかる。

3.2 ‘많이’の分類と語順に関する先行研究

‘많이’は、動作動詞の前に置かれ、その意味を修飾限定する様態副詞の一つに分類される(손남익 1995) 一方で、基本的には動詞や存在詞を修飾するが、形容詞や指定詞も修飾できる副詞としても考えられている(徐常揆(1991)、임유중(1999)、홍사만(2002)、신지연(2002))。それに関して홍사만(2002:168)は、‘많이’が持つ多数と多量は程度の強意化を成し、程度副詞の機能に推移したものと説明している。要するに、‘많이’は様態副詞と程度副詞の両方の機能を持つ副詞なのである。

‘많이’の文章内における位置に関しては、손남익(1995:80)は動作動詞の直前の

みを許容している反面、성기철(1992:130)は、述語の前に置くのが最も自然な述部指向的語順の副詞でありながらも、叙述部内なら位置移動が可能な副詞として見ている。一方、임유중(1999:52)は、‘많이’と‘조금’は、用言が動詞と存在詞の時は、数詞の特性を表して先行する体言の意味を修飾するが、用言が形容詞と指定詞句節の時は、程度副詞の機能を見せ、後行する用言を修飾すると指摘している。

‘많이’を数詞と同様なものとして扱い、後行する述語ではなく先行する名詞を修飾すると考えているところが注目される。

4. 調査方法と結果

4.1 調査方法

本研究に用いるコーパスは韓国国立国語院の 21 世紀世宗計画において作成、提供しているものである(언어정보나눔터 <https://ithub.korean.go.kr/>)。このコーパスは、大きく現代文語と現代口語に分けられるが、この研究はあくまでも文章に現れている‘많이’の語順の特徴を究明するためのものなので、現代文語のみを対象とした。「現代文語」、「形態分析」、「一般副詞」という3つの条件を与え、‘많이’の用例を抽出した⁵。用例は総 6,966 例得られたが、同じ用例が重複するものや修飾部分が曖昧な例は除き、結果 6,403 例を対象とすることになった。この研究は、副詞‘많이’の基本位置が用言の直前であることを前提にしたものなので、その後部にどのような言葉が置かれているかを中心に分類を行った。結果、‘많이’の後部に用言が続くものと、「名詞+助詞+用言」の用言句節が続くもの、さらに副詞が続く場合もあったので、用言前、副詞、用言句節前に分けてまとめた。

4.2 調査結果

表2は、コーパスから得られた用例を‘많이’の後部を中心に統計を出したもの

⁴ 現代文語は、さらに新聞、雑誌、本、その他の出版物などから構成されているが、なるべく実際に使用されているさまざまな文章における副詞の語順の特徴を究明するため、ジャンル分けはしないことにした。

⁵ データのダウンロードは、2015年9月21日から23日にかけて行った。

⁶ 例えば「성격과 외모 면에서 아주 많이。」は‘많이’で終わっており、述語が何か明確ではないものは対象外とした。

である。それによると、‘많이’の後部には、分析対象 6403 例のうち 6281 例(98. 10%)が用言の直前に位置している。即ち、用言前は副詞 ‘많이’ が最も好む場所であり、‘많이’ の基本位置であることが言えそうである。

表 2. ‘많이’ (6403 例) の後部にあるもの

‘많이’ の位置	‘많이’ の後部
用言前 (6281 例 : 98. 10%)	動詞 ⁷ (5906 例 : 92. 24%)、存在詞(227 例 : 3. 55%)、 形容詞(146 例 : 2. 28%)、指定詞(2 例 : 0. 03%) *動詞の中には、形容詞に-지다(くなる)・-하다(がる)が接続して動 詞化した 125 例を含む
副詞 (17 例 : 0. 26%)	否定副詞(13 例 : 0. 20%)、一般副詞(4 例 : 0. 06%) *用例 17 例すべて述語は動詞である。
用言句節前 (105 例 : 1. 64%)	名詞+助詞+動詞(103 例 : 1. 60%)
	名詞+助詞+存在詞(1 例 : 0. 02%)
	名詞+助詞+形容詞(1 例 : 0. 02%)

次に 6403 例全体の中から ‘많이’ がどのような用言と共に共起しているかを見ると、動詞が 6026 例(94. 11%)で最も多く、存在詞(228 例)と形容詞(147 例)⁸が続き、わずかであるが指定詞(2 例)とも共起していた。よって、‘많이’ はすべての用言と共に共起しているわけであるが、指定詞の例が注目された。

- (3)a. 사실 나이로 따지자면 그 둘은 K 보다 그다지 많이 안래인 것도
아닐텐데、 (경마장에서 생긴 일)
- b. 카피라이터로 많이 근무중이며, 자연계열보다는 어학 전공자가 많다고
오씨는 설명했다. (조선일보 생활(93))

⁷ 「이 소설 속에는 ‘많이’ 그리고 ‘체대로’ 사랑하는 사람들의、、」のように修飾するものが動詞「사랑하는」であることが明確な場合と、「보관용기/개량김치독 많이 사용…200대 10 만원선」のように名詞で終わっていても明らかに하다が省略され、動詞を修飾しているものは、動詞に分類した(全 15 例)。金世朗 (2016) では、前者は「並列」、後者は「名詞で終わる」に入れ、別の枠で分類を行っていた。

⁸ ‘많이’ と主に共起している形容詞は、다르다, 아프다, 힘들다, 피곤하다, 부럽다, 부드럽다, 부족하다, 필요하다, 같다, 편찮다などである。

(3a)의 ‘많이 아래인’의 ‘아래’는 ‘많이 책, 많이 학생’とは異なり、程度性が強い名詞である。(3b)の ‘많이 근무중이며’も ‘많이 근무하고 있으며’と同意で動作性を持つ。つまり ‘많이’が修飾している指定詞はいずれも程度性や動作性を帯びていることになる。

副詞の後に副詞が位置することは一般的なことであるが、‘많이’の直後に副詞が置かれている例は17例あった。13例は否定副詞(안が9例、못が4例)で、4例は一般副詞であった。否定副詞は、用言の意味に最も深く関わっていることから用言の直前に立つしかない。一般副詞は4例すべて依頼文で見られ、副詞「좀」が続いていた⁹。

一方、‘많이’が用言前ではなく用言句節「名詞+助詞+用言」の前に位置するものは、6403例のうち105例(1.64%)あった。そのうち、用言が動詞の場合は103例で、存在詞と形容詞がそれぞれ1例ずつ見られた。これらの例は(4)と(5)、(6)で見ると特に不自然な感じはしない。

「用言が動詞の場合」

(4) 재개발이 된다고 해서 사람들이 많이 이사를 갔다.

(우리교육 초등용 94/11)

「用言が存在詞の場合」

(5) 회원들의 기계적 철학의 내용에 있어서도 세부적으로 많이 차이가 있었고
이같은 차이들은 그들이 그러한 문제를 깊이 、 、 、

(과학혁명 - 근대과학의 출현과 그 배경)

「用言が形容詞の場合」

(6) 엄마는 당장 눈앞에 보이는 삼남매 때문에 더 많이 배가 고프고 더 많이
목이 타습니다.

(뽕배가 보고 온 달나라)

以上で、コーパスから抽出した ‘많이’ の 6403 例を中心に、その後部の様相を概観したが、次は ‘많이’ が用言句節の前に置かれている 105 例を中心にその傾向と特徴を見ていくことにする。

⁹ 이선생 감질나게 조금씩 주지 말구 돈은 얼마든지 갖고 올 테니까 물건을 많이 좀 빼주슈.
(어둠의 자식들)

5. ‘많이’ + 「名詞+助詞+用言」から見られる文構造上の傾向

5.1 ‘많이’ の意味の強化によるもの

5.1.1 副詞(語類)+많이

‘많이’ の前に副詞(語類)が置かれ、二重副詞文の構造をしている例が 105 例中 68 例あり、最も多く見られる傾向であった。

(ア)a. 더(욱)(23), 가장(13), 너무(도/나) (8), 꽤(2), 훨씬(2), 제일(1),
부쩍(1), 보다(1), 수없이(1), 하도(1), 참(1), 될수록(1), 되도록(1),
될 수 있는 대로(1), 별스럽게(1)+많이 : 58 例

b. -보다(더/훨씬)+많이 : 20 例

(イ)얼마나(2), 어떻게(1), 그만큼(1), 이렇게(1)+많이 : 5 例

上で見る通り ‘많이’ は実に多様な副詞(語類)と共起していることがわかる。
(ア a)は ‘많이’ の前でその意味を具体的に表しているもので、中でも ‘더
많이, 가장 많이, 너무 많이’ が特に多かった。これらの副詞の結合は ‘많이’ の
持つ意味の強化につながり、修飾範囲を広くする結果になっていると考えられる。

(7)a. 따라서 여성과 가난한 사람들이 더 많이 스트레스에 노출되어 있기
때문에 우울증 같은 특정한 심리학적 장애가 더 높은 것은 당연한
것으로 생각된다. (심리학개론)

b. 한국 축구는 1954 년 스위스 월드컵부터 시작해 아시아 대표로 가장 많이
월드컵에 나갔지만 실전에서는 늘 국제 수준과의 격차만 확인하고
돌아왔다. (한겨레 종합/신문)

c. 떠오르는 모든 상념을 될 수 있는 대로 많이 공책에 적어 두어야 한다는
것이다. (언어와 표현)

(7)の ‘더 많이, 가장 많이, 될 수 있는 대로 많이’ がそれぞれ修飾しているの
は、直後の名詞 ‘스트레스, 월드컵, 공책’ ではなく、 ‘더 많이 스트레스에
노출되어 있기 때문에’ のように述部全体だと言える。

このような二重副詞文の中で、目だって出現頻度が高かったのは(ア b)の「-보다(도)」による比較構文である。これは、105 例中 20 例見られた。

(8)a. 특파원 가운데 아마 나보다 많이 기사를 썼던 사람은 없었다.

(봉두완칼럼)

b. 지식의 폭발과 그리고 과학연구의 대기업화 등으로 인해서 옛날보다도 더 많이 정치와 경제에 의존하지 않고는 그 과제를 수행할 수가 없게 되었다.

(대학의 뜻)

(8a)の‘-보다 많이’のように‘많이’だけの例(5例)もあったが、(8b)‘-보다 더 많이’(13例)のように比較を表す二重副詞構文との共起が多かった。(7a)と(8a)を見ると‘여성과 가난한 사람들이 (그렇지 않은 사람들보다) 더 많이 스트레스에 노출되어 있기 때문에’と‘아마 나보다 (더) 많이 기사를 썼던 사람’のように‘-보다’と‘더’のどちらかが出現していなくても相互の共起が想定できる。そうすると二重副詞文における比較構文の占める割合は非常に高くなる。

성기철(1992:131)は(9)を用い、副詞‘더’に関して比較の基準となる副詞成分を前に置く場合、その語順はかなり自由になると指摘している。

(9) ㄱ. 내가 철수보다 일을 더 많이 했다.

ㄴ. 철수보다 내가 일을 더 많이 했다.

ㄷ. 철수보다 내가 더 일을 많이 했다.

ㄹ. 내가 철수보다 더 일을 많이 했다.

ㅁ. 철수보다 더 내가 일을 많이 했다.

ただ、(9)を見ると、‘많이’は動詞の直前に固定したままなのでその指摘は‘더’に限られているように見える。しかし‘더’が‘많이’の前で直接修飾する場合は、(10)の通り‘많이’も‘더’と共に自由になると言っているのではなかろうか。

- (10) ㄷ. 철수보다 내가 더 많이 일을 했다.
 ㄹ. 내가 철수보다 더 많이 일을 했다.
 ㄹ. 철수보다 더 많이 내가 일을 했다.

一方、(ア)の二重副詞文と比較構文においてももう一つ注目されることがあった。
 ‘많이’の後部の用言句節が連体修飾節又は名詞節になっている例が多いということである。

- (11) a. 갓난아기들이 가장 많이 태열에 걸리는 때는 이유식을 시작하는 시기이다. (라벨르 9 월호)
 b. 애주가들이 흑서기에 더 많이 술을 마시는 것으로 분석되고 있다. (중앙일보 2001)

(11)の‘가장 많이, 더 많이’が影響力を与える意味領域は‘태열에 걸리는 때는 ~시기이다’と‘술을 마시는 것으로 분석되다’の全体であり、副詞が用言前に位置する時より強調された感じを受ける。二重副詞文及び比較構文と連体修飾節類が一緒になっている例は30例もあることから、‘많이’が用言句節の前に置かれる強い条件だと判断された。

(-보다)副詞+많이	(名詞+助詞+用言)+名詞	何だ・どうだ
副詞句	連体修飾節・名詞節	述部

(イ)は‘많이’との関わり方において、(ア)と性格を異にしている。(12)と(13)で見るように‘많이’が無くても文は成立するが、‘얼마나, 어떻게, 그만큼, 이렇게’が無ければ、文が成立しないか意味が変わるためである。

- (12) a. 정말 나는 젊은 시절의 태반을 얼마나 많이 어머니와 아버지의 애정과 뜻을 거역하고 탈선의 일만 저질러 왔던가.
 (한국 현대 수필을 찾아서)
 b. 무지한 사람들이 어떻게 많이 어린이들의 얼굴에 슬픈 빛을 지어

주었느냐?

(한국 현대 수필을 찾아서)

(13) a. 모를 미리 썬 놓으면 모를 썬내는 시간만큼 시간을 벌어 그만큼 많이
모를 낼 수 있기 때문에 미리 모를 썬놓을 정도로 밤낮없이 일을
하였다. (과천향토사)

b. 뭘 이렇게 많이 무역을 해 가시나? (만세전)

(12)의 ‘얼마나, 어떻게’は文末の疑問を表す ‘~가?’ と ‘~냐?’ に直接関わっており、統辞的な共起関係にあると言える。また、この時の ‘많이’ は、用言 ‘저질러 왔던가’ と ‘지어 주었느냐’ の直前に置くと不自然な文になるため、述語のみを修飾しているとは言えない。(13)の ‘그만큼’ と ‘이렇게’ も ‘많이’ を修飾しているというより述部全体に関わっていると言える。(12)と(13)における ‘많이’ は、‘얼마나, 어떻게, 그만큼, 이렇게’ と共起することでその程度をより具体化しているように見える。よって、(イ)における ‘많이’ は、先行する副詞語類の数量と程度を具体化し強調する働きをしていると言える。

5.1.2 많이+補助詞‘도’

‘많이’ の意味の強化には副詞語類との結合以外に補助詞の接続によるもの(2例)が見られた。‘도’ は、失望、驚き、感動などの気持ちを添加する補助詞だが ‘많이’ と結合し、その意味を強化している。

(14) ‘광복 50 주년’ 방송에서 많이도 언급이 되었고 또 여기저기서 여러 문화 행사가 치러지곤 했지만,, (고려대학교 교양 국어 작문)

(14)は ‘언급이 된’ 事実に対する書き手の否定的な気持ちと失望を表す文である。それを ‘언급이 많이도 되었고’ のように用言の前に ‘많이도’ を置くと、書き手の意図が薄れてしまう。即ち、‘많이도’ を句の前に置くことで書き手の特別な気持ちがより充実に現れていると言える。

5.2 「動作の主体・対象＋‘많이’＋「名詞＋助詞＋用言」」構文

韓国語の成分副詞は、基本的にそれが限定修飾する言葉の前に位置することが原則であると考えるが、3.2 で紹介した通り、임유종(1999 : 52)は用言が動詞と存在詞の時の‘많이’と‘조금’は、数詞の特性を表し先行する体言の意味を修飾すると述べている。

(15) ㄱ. 사람들이 많이 밥을 먹었다.

ㄴ. 사람들이 밥을 조금 먹었다.

要するに、(15)のㄱの‘많이’は先行する主体‘사람들이’の数量を修飾し、ㄴの‘조금’は先行する対象‘밥을’の数量を修飾しているということである。実は、日本語の「たくさん」をはじめとする量の副詞について類似した見解が見られた。仁田義雄(2004 : 191-192)は、典型的な量の副詞の中心的な用法は、主体や対象の個体の数量限定であると述べ、「たくさん農園を作ったんだね」の「タクサン」は対象である農園の数を指定し限定していると説明している。

韓国語の副詞‘많이’はその主体や対象の位置が‘많이’より先行するという点だが、日本語の「たくさん」と違うところだが、数量を表す副詞の機能に関する基本的な考えは同じものと言える。

(16) a. 아침 9 시에 대회가 있는 대구 국민학교에 가니 벌써 아이들이 많이

운동장에 놀고 있고, 선생님들은 청소 지도에 분주하다.

(이오덕의 교육일기)

b. 바다의 높이가 그때보다 지금은 더 높아졌기 때문에 그들이 살던 자리가

많이 바다 속으로 묻혔을 가능성이 짙다.

(길은 길을 따라 끝이 없고)

(16)は‘많이’が先行する名詞‘아이들이’と‘자리가’の数量に直接関わっていると考えられる例である。厳密には、先行する名詞の数を限定し、後行する用言句節全体を修飾していると言うべきであろう。(16a)は、‘많이’を動詞‘놀고’の

直前に置いてもいいが、‘아이들이’の近くに置くことでその数量に重点が置かれたものと考えられる。一方、(16b)は、‘자리가’の後部以外の位置は不自然に感じさせる。用言句節中の‘문혔을’の前は不自然であり、‘질다’の前だと全く意味が変わってしまう。(16b)は‘많이’が修飾限定したいものは、まさに‘자리가’であり、それ以外は位置できないことを意味する。

「動作の主体・対象+많이+用言句節」構文における特徴は、修飾したいものの最も近くに位置するといった副詞の習性と数量副詞としての‘많이’ならではの特徴がよく表れているものと考えられる。

5.3 「名詞+助詞+用言」が一つの意味単位として機能するもの

‘많이’の後部に位置する用言句節「名詞+助詞+用言」の中の名詞と用言の結束力が強く、一つの意味単位として機能するものが多く見られた。

(ア) 名詞+하다/되다/받다/당하다

- a. 名詞+하다: 걱정(을) 하다, 당황(을) 하다, 후회(를) 하다, 무리(를) 하다
- b. 名詞+되다: 안정(이) 되다, 적응(이) 되다, 회복(이) 되다, 언급(이) 되다
- c. 名詞+받다: 고통(을) 받다, 상처(를) 받다, 위로(를) 받다, 지배(를) 받다, 배정(을) 받다
- d. 名詞+당하다: 희생(을) 당하다, 따돌림(을) 당하다

(イ) 名詞+動詞・形容詞・存在詞

- a. 담(을) 쌓다, 땀(을) 흘리다
- b. 눈에 띄다(15), 필요로 하다(6), 차이(가) 나다(5), 배(가) 고프다, 목(이) 타다, 신경(을) 쓰다, 자취를 감추다, 차이가 있다,
- c. 이사(를) 가다, 도망(을) 가다,

上で見る通り、(ア)と(イ)はいずれも名詞と用言の間の助詞があってもなくても使えるものが目立って多い。これらは分離用言¹⁰というが、助詞が無い状態で一つ

¹⁰ 分離用言とは菅野祐臣(2003:1033)によるもので、二つの構成要素の間に助詞が入って2単語

の単語のようによく使用される。

- (17) a. 특히 옷 때문에 많이 걱정을 했다. (고려대학교 교양국어 작문자료)
b. 처음에는 많이 당황을 했지만 이것 또한 여행의 좋은 경험이라
자위하며,, (레이디경향 1994)
c. 편지를 읽어보니 이제 너도 많이 적응이 된 것 같아 마음이 놓인다.
(고려대학교 교양 국어 작문)

まず、(ア)の-하다/-되다/-받다/-당하다類は、すべて助詞が省略可能である。さらに名詞に着目すると、‘당황, 후회, 걱정, 안정, 무리, 회복’など多くが漢字語であることと、人間の心理¹¹または抽象性を帯びていることが注目される。これらの用言は様態性より程度性が強いと言える。また、홍사만(2002)では-되다, -받다, -당하다は状態性が強く程度副詞の修飾が受けられると指摘している。要するに(ア)に関しては、動詞であっても形容詞的な要素が強く、この時の‘많이’は用言句の程度性を修飾していることになる。ただ、今回抽出したコーパス資料から‘걱정(을) 하다’と‘많이’が共起している例を調べると、‘걱정을 많이 하다’は12例、‘많이 걱정을 하다’は1例のみ見られたことから、(ア)において‘많이’が好む位置は-하다/-되다/-받다/-당하다の前であると言える。

(イ)は、助詞が省略できないものもあるが、いずれも用言句全体が一つの意味を成しているものである。

- (18) 순대가 굵도록 퍼마시던 대포와도 꽤 많이 담을 쌓고 심심풀이로 수석
이며 서화·난초 등에 손대기 시작했다. (가장 작은 것으로부터의 사랑)

(イ a)の‘담을 쌓다’と‘땀을 흘리다’は、それぞれ‘아주 관계없이 지내다’と‘매우 열심히 일하다’¹²といった慣用的な意味を持つ。名詞と用言の

のように見えるものを指す。

¹¹ 한영균·고은아(2011:377)では、감사, 걱정, 고생, 고심, 근심, 당혹, 당황, 분노, 사랑などは心理的状态性を表しており、形容詞的な意味を持つと言っている。

¹² ‘담을 쌓다’と‘땀을 흘리다’の意味は『연세한국어사전』を参照

間に副詞を入れると ‘담을 많이 쌓다, 땀을 많이 흘리다’ のように慣用的な意味は薄れてしまう。이희자(1994:338)ではこのように第3の意味を持つ慣用句を熟語と称し、これらは2つの要素の間に副詞などの挿入が制限されると指摘している¹³。句全体が一つの意味単位であるためであろう。

- (19) a. 시에는 특별히 이러한 교묘한 언어 사용이 많이 눈에 띄지만 소설과 수필에서도,, (문학의 이해)
- b. 심장의 활동이 심해져 산소를 많이 필요로 하게 되는데 폐로부터의 산소의 흡입이,, (중년기 건강클리닉)
- c. 4, 50 대는 모든 기관의 노화가 현저하게 나타나는 때라고 볼 수 있다. 개인에 따라 노화의 정도는 많이 차이가 난다. (중년기 건강클리닉)

今回の調査で出現数が特に多かったのは(イ b)であるが、中でも ‘눈에 띄다, 필요로 하다, 차이가 나다’ の用例が目立って多かった。これらが ‘많이’ と共起している例数に着目すると、‘눈에 띄다’ は、全出現数18例のうち15例が ‘많이 눈에 띄다’ で、 ‘차이가 나다’ は全出現数6例中 ‘많이 차이가 나다’ が5例だった。 ‘필요로 하다’ は、6例中 ‘필요로 많이 하다’ は見られず、すべてが ‘많이 필요로 하다’ の形で使用されていた。傾向として、この3つの用言句は用言より句の前を好むものとして見てよかろう。特に ‘필요로 하다’ は、 ‘～가 필요하다’ に対し、 ‘～를 필요로 하다’ の形しか存在せず、句の構造を成しているといえ、一つの単語と言うべきものであり、このようなものは名詞と用言の間に副詞を入れることはできないと言える。

- (20) a. 인간은 죄 자체보다도 그 죄를 은폐하려는 데 더 많이 신경을 쓴다. (현대인이 잃어버린 것들)
- b. 재개발이 된다고 해서 사람들이 많이 이사를 갔다. (우리교육 초등용 94/11)

¹³ 이희자(1994:338)では、熟語は一般的に副詞の修飾を受けることができなかつたり、補助詞の挿入が自由ではないとしている。

*그는 미역국을 많이 먹는다. *그는 미역국도 먹는다.

しかし、(イ b)には以外にも ‘신경(을) 쓰다, 배(가) 고프다, 목(이) 타다’ などがあがるが、これらは ‘신경을 많이 쓰다, 배가 많이 고프다, 목이 많이 타다’ のように用言の前に副詞を置いて使用することが多い。実際、‘신경을 쓰다’ は、全出現数 13 例のうち、二重副詞構文の(20a)1 例のみが用言句の前に位置しており、残りの 12 例はすべて用言 ‘쓰다’ の前に位置していた。

(イ c)の ‘이사(를) 가다, 도망(을) 가다’ は様態性を強く感じるものであるが、‘(사람들이 많이) 이사(를) 가다/도망(을) 가다’ のように先行名詞の数量を修飾限定しながら句全体を修飾している傾向が見られた。

以上で、用言句節が一つの意味単位として機能する場合、副詞 ‘많이’ が用言句の前に位置する傾向があることについて述べてきたが、‘필요로 하다’ と慣用句以外は、用言前と用言句節の前のどちらも位置できるうえに、より好まれる位置というのは個別の様相を呈しているため、今のところは傾向しか言えない状態である。この部類の用言句と副詞の語順との関わりに関する研究が今後必要だと考えられる。

6. ‘많이’ の位置と文体上の理由

朴秉洙(1976)は、副詞の位置変位の理由として「文体上の理由」を挙げている。ここでは今までの考察を通して、文体上の理由に着目して副詞の位置変位の要因は何かについて述べていく。

まず、位置変位の最も大きな理由として「強調」が挙げられる。‘많이’ が用言句節の前に位置する 105 例の中には、‘가장 많이, 더 많이, 너무 많이’ のように二重副詞文が多かった。

(21) 하지만 너무 많이 피를 흘렸기 때문에 우체부는 우체국 문 앞에서 그만
죽어버리고 만다. (화술과 인간관계)

これらは ‘많이’ の意味の強化により、修飾範囲が広がったものと判断された。(21)は ‘많이 피를 흘렸기 때문에’ は不自然だが、‘너무 많이’ になると容認可能な文になることがその証拠であろう。分離用言の場合も同様、‘많이

걱정했다, 많이 당황해서’と言ってもいいものを、‘많이 걱정을 했다, 많이 당황을 해서’のように助詞を入れて使うのは書き手の強調したい気持ちの表れだと考えられる。‘목탄다’の場合、その程度が大きい時は‘목이 탄다’と言うのと同様だと考える。一方、(14)のように‘많이’に補助詞‘도’が接続し、書き手の主観的な気持ちを追加したものもあった。‘많이도’も書き手の強調する気持ちの反映だと考えられる。

二つ目は、「焦点の移動」である。5.3で述べた内容だが、副詞‘많이’は先行する名詞、即ち動作主体や対象の量を限定する働きがあった。(16a)の‘아이들이 많이 운동장에 놀고 있고’は、‘아이들이’の数量に焦点をおいてその数を強調しているものと判断される。半面、この例が‘아이들이 운동장에 많이 놀고 있고’になると、‘운동장에서 놀고 있다’に焦点が置かれたものと考えられる。つまり、‘많이’の位置は、焦点をどこに置くかで決まり、意味も変わるということである。「焦点の移動」は、強調の一部かもしれないが、数量副詞‘많이’ならではの特徴と言える。

三つ目は、表現効果のために文章に書き手の特別な意図を込めている場合である。

(22)a. 그들은 다 같이 다른 사람들보다는 더 많이 글을 읽는 사람들이요 또 글을 쓰는 사람들이다. (정치와 언어)

b. 그러나 ‘치 자식 먹여 살리기 위해….’에 너무 핑계를 대고, 너무 많이 남성다움을 양보해 버리는 건 아닌지 모르겠다.

(가을에 만난 사람)

(22a) は、‘더 많이’が‘글을 읽는 사람들이요’と‘글을 쓰는 사람들이다’の両方に関わって修飾している例である。(22b)は‘너무 (많이) 핑계를 대고’、‘너무 많이 남성다움을 양보해 버리는 건’のように同じ構造の文を並べ調子を合わせている。(22)の2例は、表現効果のための副詞の使用だと言える。

7. おわりに

本稿は、成分副詞‘많이’に着目し、実際のテキストを元にその位置を量的に分析することで、‘많이’の語順における傾向及び特徴を明らかにすることが目的であった。文語コーパスから抽出した 6403 例を分析した結果、全体の 98.1%(6281 例)が用言の前に位置していたことから、‘많이’の基本的な位置は用言前であることが判明した。一方で、‘많이’が用言前ではなく用言句節「名詞+助詞+用言」の前に位置する例は 105 例(1.64%)あった。105 例を分析した結果、一定の文構造上の傾向が見られた。最も大きい傾向は「副詞(語類)+많이」の二重副詞文だった。

‘많이’の意味が強化することで述部全体を修飾する傾向を見せ、修飾範囲が広くなったと考えられた。この二重副詞文は、比較構文が多く含まれることと、連体修飾節・名詞節と共起するものが多く、副詞‘많이’が句の前に位置する強い条件として考えられた。また、数量を表す意味を持つ‘많이’ならではの傾向も見られた。成分副詞は一般的に後部要素を修飾するのに対し、‘많이’は先行名詞の数量を修飾限定する働きを持っており、それが文章中の語順に影響を与えていた。最後に、用言句節が一つの意味単位として機能する場合、‘많이’はその用言句節の前に位置する傾向があった。その多くが名詞と用言の間の助詞を省略して使用できる分離用言であった。‘名詞+-하다, -되다, -받다, 당하다’類は、前の名詞が人間の心理や抽象的な概念のものが多く、この場合‘많이’が修飾するのは句全体の程度性であった。‘名詞+動詞, 形容詞, 存在詞’類は、慣用的な意味を持つものと‘필요로 하다, 차이가 나다, 눈에 띄다’は、用言句節前に‘많이’を置くことが多かった。しかし、この部類はそれぞれ使用様相に変則が多く今後の課題とされた。また、‘많이’の位置変位の要因である文体的理由には、「強調」、「焦点の移動」、「表現効果のための書き手の意図」の三つが考えられた。

本研究は、成分副詞の位置変位には、文体的な理由以外に文構造における特定傾向が関わっていることを前提としていたが、今回の調査でそれが裏付けられたと考える。ただ、今回の傾向を見出すのに使用した用例数が 105 例で少ないことと、例えば、二重副詞文と分離用言類が共起するなど傾向同士が重なって表れていること、意味論的な解釈も取り入れていることから、文法化、規則化は難しいかもしれない。しかし、これらの傾向は先行研究でも裏付けられているものが多く、今まで副詞の

位置変位の理由が「文体上の理由」とのみされていたことを考慮すると、十分価値のある探求だったと考える。

韓国語教育においては、‘많이’の位置について基本的には用言の前であると指導すべきであると考え。しかし、学習者のレベルが上がり、より詳しい情報を与えてもよくなれば、本研究の結果を参考に指導できるのではなからうか。「はじめに」で提示した学習者誤用例(1a)の‘공원에는 많이 사람이 있어요’は、用言前に‘많이’を置くべきであると指導してもいいが、日本人学習者のために修飾限定する名詞の前に位置できる「たくさん」と比較し、韓国語の‘많이’は修飾する名詞の後ろに副詞が来ることを説明すると理解しやすいと思う。また、二重副詞文と連体修飾節と一緒に使用されている‘가장 많이 이민을 가는 국가는 호주입니다(上級学習者作文)’のような学習者の作文がなぜ容認できるかの理由も説明できると考えられる。

今回の‘많이’の分析結果のうち、二重副詞構文と「動作主体・対象+많이+用言句節」構文に関する傾向は、金世朗(2016)の‘잘’の分析では見られなかった特徴である。韓国語教育学において成分副詞の語順に関する研究は、あまりされていないのが現状である。しかし、実際使用されている言語データを分析してみると、副詞ごとに異なる一定の傾向が見られている。今後もこのような研究を続け、副詞一つ一つの語順における特徴を明らかにし、その成果は韓国語教育で活かすべきであると考え。

参考文献

- 印省熙(2015)「上級クラスの学習者の作文を資料とする韓国語誤用分析の試み」朝鮮語教育学会第66回例会発表資料
- 菅野裕臣(2003)「文法概説」『コスモス朝和辞典』(第2版)、白水社
- 金世朗(2015)「韓国語成分副詞の語順教育における問題点について—韓国語教育の立場から—」『新潟国際情報大学国際学部紀要』創刊準備号、pp. 65-71
- 金世朗(2016)「韓国語の副詞‘잘’の語順教育について」『言語の普遍性と個別性』第7号pp. 35-48
- 徐常揆(1991)「現代朝鮮語の程度副詞について—副詞<아주>の<程度>と<様態>の意味を中心に—」『朝鮮学報』140、pp. 1-62
- 仁田義雄(2004)『副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 남기심・고영근(2014)『표준 국어문법론』제4판、박이정
- 朴秉洙(1976)「양태부사에 대하여」『언어』1(1)、pp. 151-167
- 서정수(2008)『한국어의 부사』한국의 탐구32、서울대학교 출판부

- 성기철(1992) 「국어 어순 연구」 『한글』 제218호, pp. 101-138
- 손남익(1995) 『국어부사연구』 박이정
- 신지연(2002) 「정도부사의 범주화 기준에 대하여」 『어문학』 pp. 71-87
- 유현경 · 서상규(2002) 「한국어 학습자 말뭉치에 나타난 부사 사용에 대한 연구」 『이중언어학』 20권, pp. 213-234
- 이희자(1994) 「현대 국어 관용구의 결합 관계 고찰」 『한국정보과학회 언어공학연구회 학술발표 논문집』 pp. 333-352
- 임유중(1999) 『한국어 부사 연구』 한국문화사
- 정예랜(2004) 「일본인 한국어 학습자의 부사 사용 연구-학습자 작문의 오류분석을 중심으로-」 연세대학교교육대학원석사학위논문
- 한영균 · 고은아(2011) 「유의적 정도부사의 빈도·분포·결합관계의 분석과 그 활용-학습자 사전의 용법 기술의 관점에서-」 『한국어의미학』 35, pp. 335-394
- 홍사만(2002) 「한·일어 정도 부사의 대조 연구」 『언어과학연구』 21, pp. 189-222

(新潟県立大学 国際地域学部)

kimsr@unii.ac.jp

韓国語教育研究 第9号

ISSN 2186-2044

2019年9月10日印刷

2019年9月15日発行

発行 日本韓国語教育学会
〒577-8052 大阪府東大阪市小若江3-4-1
近畿大学 国際学部 酒匂康裕 研究室気付
e-mail: jaklemejiro@gmail.com

編集 韓国語教育研究編集委員会
(委員長 /金世徳 kim0120sdjp@yahoo.co.jp)

印刷 株式会社 仙台共同印刷
〒983-0035 宮城県仙台市宮城野区
日の出町二丁目4-2
TEL 022(236)7161(代)/FAX 022(236)7163